

第1章 平成4年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・亀山構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代のまとまった遺物が出土する小串構内など周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を行う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺における既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合などを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の調査方法によって調査を実施している。

平成4年度は下記のように、事前調査2件、試掘調査2件、立会調査12件の計16件の調査を実施した。

Tab. 1 平成4年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	調査面積	調査期間	挿図番号
事前	農学部連合獣医学科棟新営	吉田構内	O・P-17	約900㎡	9月8日～11月13日	Fig. 96-126
	教育学部附属光中学校武道館新営	光構内	-	約500㎡	1月11日～2月12日	Fig. 101-13
試掘	工学部プレハブ研究・実験棟新営	常盤構内	-	6㎡	7月13日	Fig. 98-11
	工学部・工業短期大学の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新営	常盤構内	-	40㎡	7月23日	Fig. 98-12
立会	交通規制標識及びバリカー設置	吉田構内	L-10, P-22, H-23, S-19・20	各標識約5㎡ 各バリカー約2.5㎡	4月20-21日 5月7日	Fig. 96-127
	道路（南門ロータリー）取設	吉田構内	H-23		4月28日	Fig. 96-128
	ボイラー室給水管漏水補修	吉田構内	P-16	約4㎡	5月15日	Fig. 96-129
	農学部附属農場ガラス室新営	吉田構内	S-13	約3.5㎡	6月8日	Fig. 96-130
	大学会館前記念植樹の植え込み	吉田構内	L・M-15	約3㎡	6月9日	Fig. 96-131
	泉町平川線緊急地方道路整備及び山口大学吉田団地環境整備（正門周辺）	吉田構内	H-11		12月4・22・24日 1月8日	Fig. 96-132
	泉町平川線緊急地方道路整備（信号機）	吉田構内	H-11	約7㎡	3月5日	Fig. 96-133
会	焼却棟地盤調査	小串構内	-		11月10日	Fig. 97-22
	工学部及び工業短期学部職員宿舎取壊	常盤構内	-	約9㎡	8月7日	Fig. 98-13
	大学祭展示物設置	常盤構内	-	約7㎡	11月16日	Fig. 98-14
	教育学部附属光中学校武道館地盤調査	光構内	-		11月4日	Fig. 101-14
	上堅小路共同下水管布設	その他	-	約7㎡	5月12日	-

吉田構内の調査 (本部、人文・教育・経済・理・農の各学部、教養部：山口市大字吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在)

事前調査1件、立会調査7件の計8件の調査を実施した。

農学部連合獣医学科棟新営予定地の事前調査は、平成3年度の試掘調査の結果を受けて行われた。構内の中央部からやや南東に位置する調査地からは、縄文時代の河川跡を検出した。河幅が17m以上と推定された試掘調査と同様に新営予定地内からは東側の川岸を検出することはできなかった。ただし、河川跡が北から西南に蛇行していることが判明した。



Fig. 1 山口大学吉田・亀山両キャンパス位置図

河川跡からの出土遺物には、ナイフ形石器・石匙などの石器類と縄文土器がある。主体となる縄文土器は、晚期中葉の時期を示すものである。これらの事実関係は、昭和62年度に調査された教養部複合棟新営に伴う発掘調査で検出されている縄文時代晚期中葉の河川跡と同一河川である可能性を示唆する。流路方向・時期ともに矛盾はない。吉田遺跡における縄文時代の自然環境復元の貴重な資料である。

8件の立会調査は、いずれも小規模な面積の掘削に伴うものであった。このうち、泉町・平川線緊急地方道路整備工事、環境整備工事に伴う立会調査によって、地下状況のデータがなかった正門周辺の様相が明らかとなった。地山と考えられる明茶灰色粘土層と旧水田床土の間、現地表下約130cmに黒色粘土が厚さ約20cmにわたって堆積していた。調査面積の規模が小さく、現状では包含層か無遺物層かの判断を下すことができない。

小串構内の調査 (医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市大字小串1144所在)

構内の北端で、焼却棟新営に先立つ地盤調査が行われた。ボーリング位置を確認のため、埋蔵文化財資料館が立ち会った。なお、ボーリングデータから本地点が、2 m以上の埋土に覆われていることが判明した。

常盤構内の調査 (工学部：宇部市常盤台2557、尾山宿舍：同上野中所在)

試掘調査2件、立会調査2件の計4件の調査を実施した。

構内は北から南に向かって、階段状に4段にわたって平坦に造成されている。その下1段目の西端で、プレハブ研究・実験棟新営に伴い試掘調査を行った。以前この地にあった、宇部工業専門学校校舎のコンクリート基礎が検出された。この調査地周辺が構内造成以前から、削平を受けていたことが明かとなった。

構内の下から3段目平坦地の中央東側、建設工学科実験研究棟の北側グラウンドで、研究・実験棟新営に伴い試掘調査を行った。表土直下が、すぐ地山であった。遺構・遺物の検出はなかった。東に隣接する工学部及び工業短期大学部職員宿舎でも取り壊し工事に伴い立会調査を行ったが、同じく遺構・遺物の検出はなかった。構内の下から3段目の平坦地も、相当な削平を受けているものと考えられる。

構内造成時における削平の激しさが、明らかになりつつある。しかし、まだ構内の上1段目平坦地のデータは乏しく、今後の継続的な調査が要求される。



Fig. 2 山口大学小串・常盤両キャンパス位置図

光構内の調査 (教育学部附属光小学校、同光中学校：光市大字室積浦1-1所在)

「御手洗遺跡」として周知されており、事前調査1件、立会調査1件を実施した。

中学校武道館新営予定地の事前調査は、平成3年度の試掘調査の結果を受けて行われた。調査区は光構内の南端部、峨嵋山の山麓に近接した箇所である。旧山口県女子師範学校の造成によって大規模な攪乱を受けていたが、破壊をまぬがれた部分で上下に2枚の遺構面を検出した。

下位の遺構面(第2遺構面)からは、土壙4基、柱穴6基、土器集中区を検出した。土壙には、混入の可能性もあるが縄文時代前期の曾畑系土器を出土するものがある。過去に知られていた御手洗遺跡の縄文土器は晩期のもので、御手洗遺跡の上限がさらに遡ることとなった。土器集中区は炭灰が充填した古墳時代の土壙を中心に、古墳時代須恵器・土師器などが散在していた。

上位の遺構面(第1遺構面)からは、土壙5基、柱穴11基が検出された。上位の遺構の大半が、炭灰を含んだ黑色砂で充填されていた。遺構内から出土する土器は、12世紀後半～13世紀の遺物である。

本調査区における遺物包含層の遺物量は、きわめて少ない。遺構の密度も希薄であり、遺跡の中心より外れていると考えられる。より御手洗湾によった地点、光中学校体育館敷地内では、多量の土師器・須恵器が出土している。また、海岸部でも古代から中世の遺物

の散布がみられる。光中学校体育館敷地内付近に、遺跡の中心があったものと考えられる。

その他構内の調査

山口市上堅小路に所在する経済学部職員宿舍敷地で、立会調査を実施した。雨水排水溝及び、汚水枡の設置に伴う幅約70cm、長さ10m、深さ70cmの掘削が行われた。現地表下60cmに地山が検出されたが、地山上面は整地層であり顕著な遺構・遺物は認められなかった。

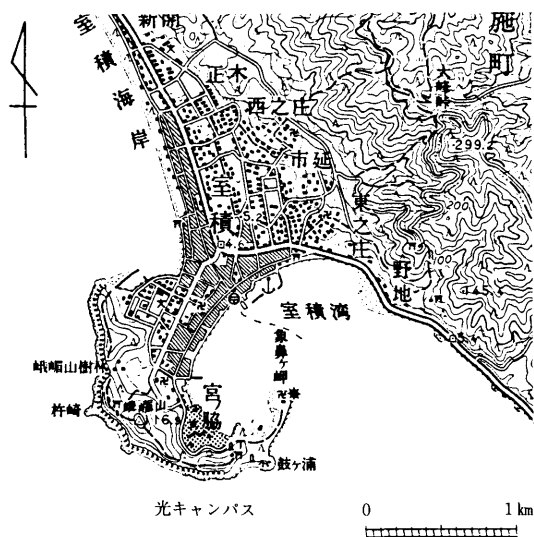


Fig. 3 山口大学光キャンパス位置図

Y = -64°750
y = 0

Y = -64°250
y = 500

Y = -63°750
y = 1000

X = -205°000
x = 1000

X = -205°500
x = 500

X = -206°000
x = 0



Fig. 96 山口大学吉田構内地区割および調査区位置図

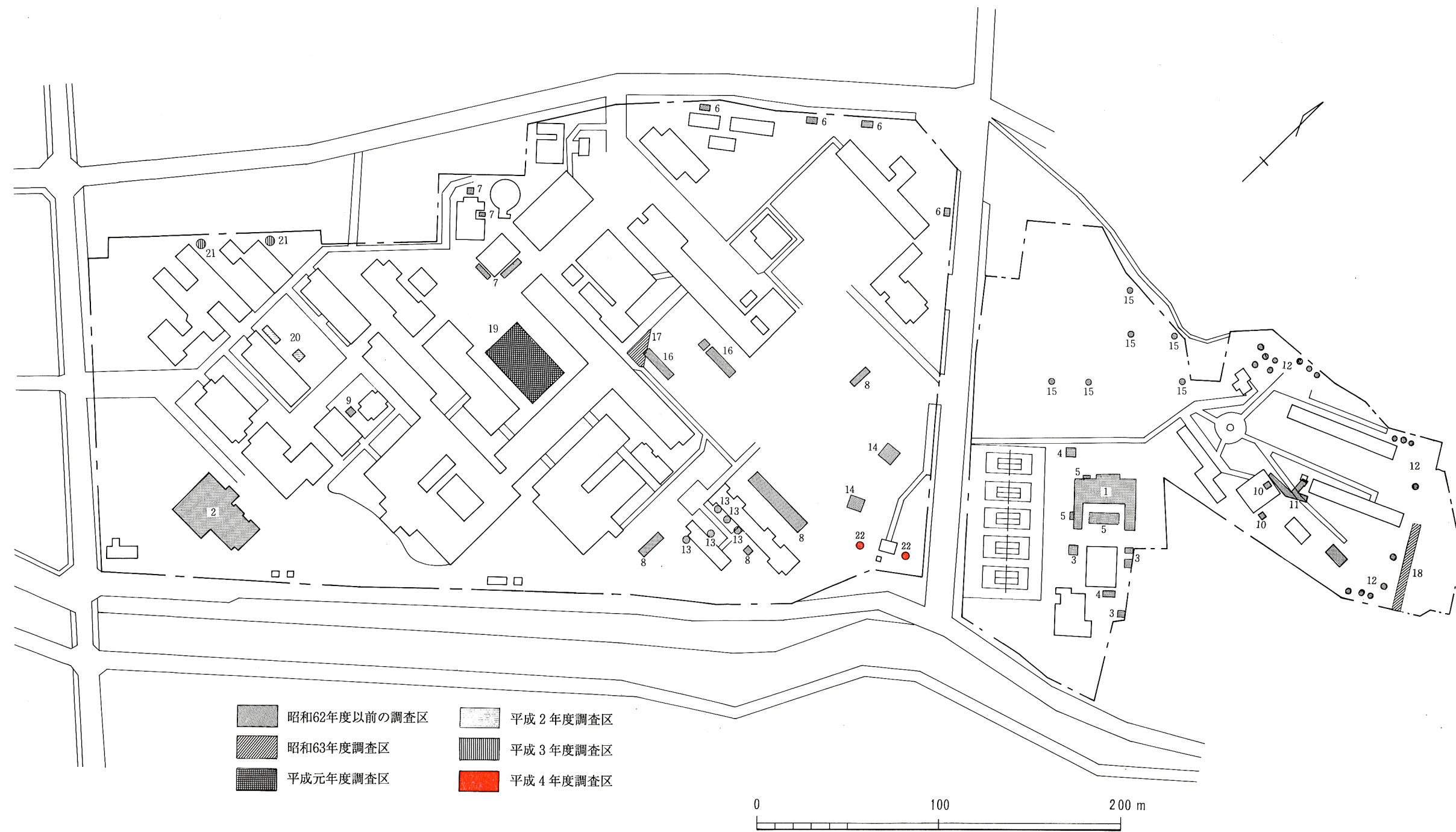


Fig. 97 山口大学小串構内調査区位置図

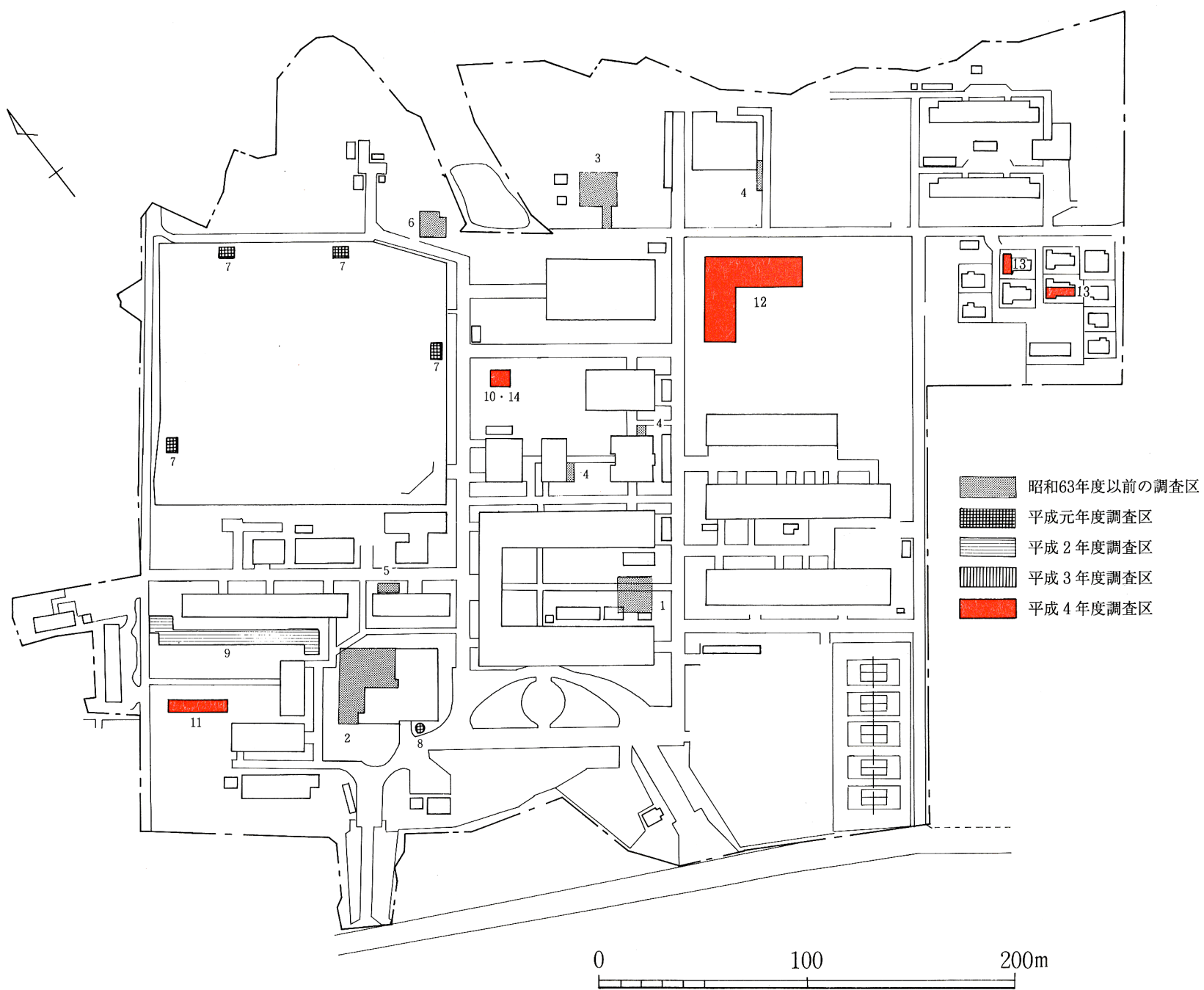


Fig. 98 山口大学常盤構内調査区位置図

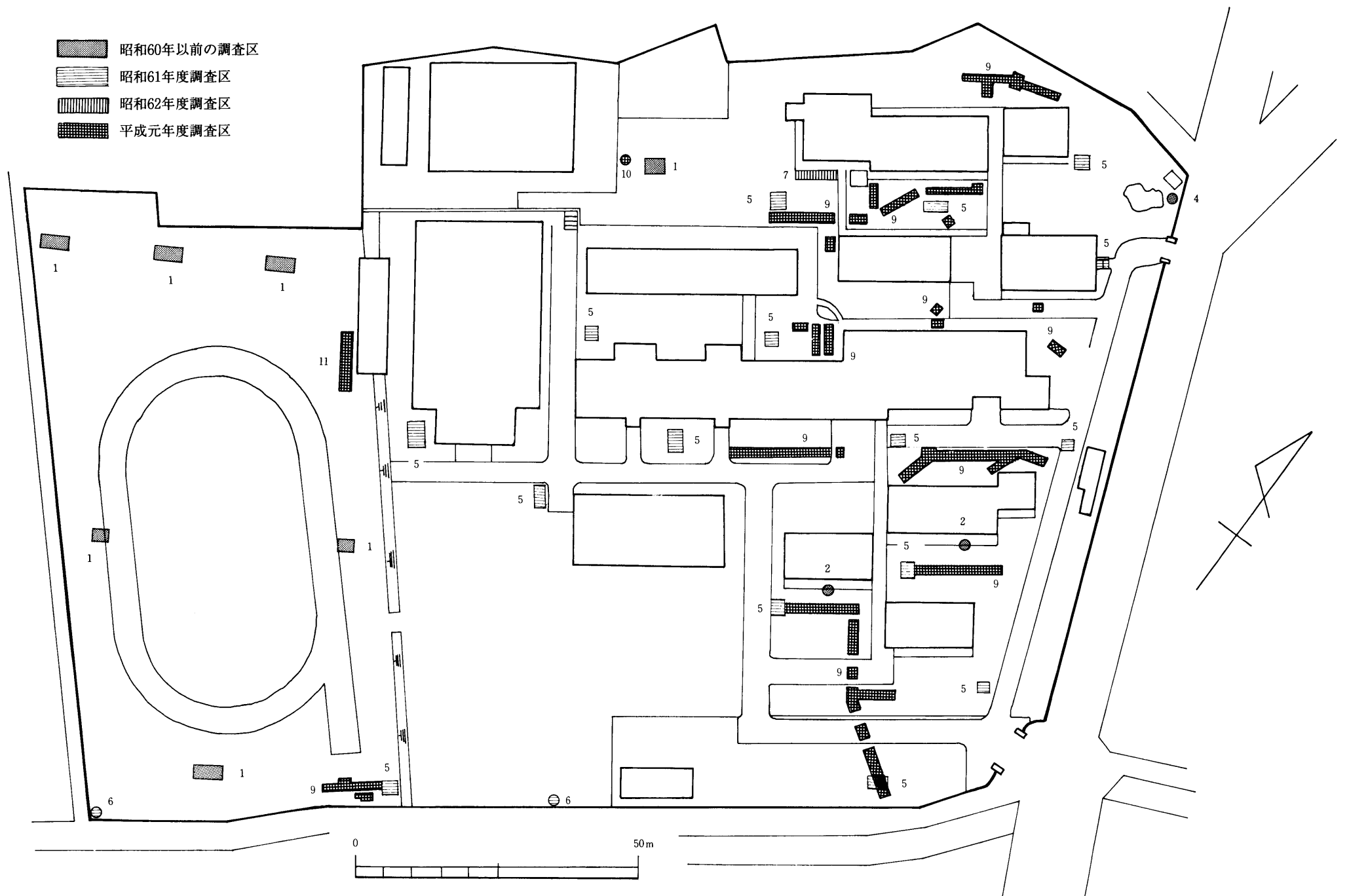


Fig. 99 山口大学亀山構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

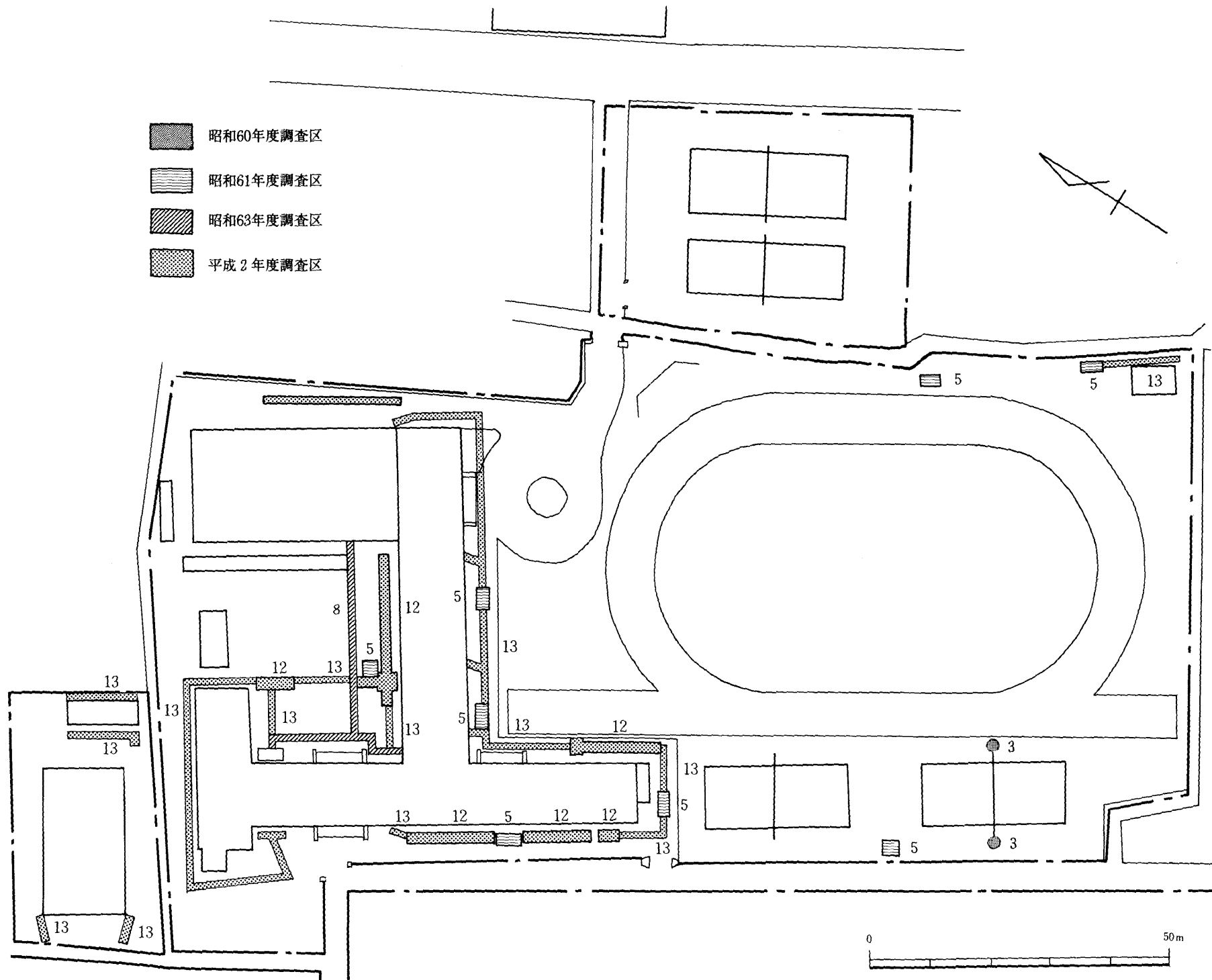







Fig. 100 山口大学亀山構内（中学校）調査区位置図

-  昭和62年度以前の調査区
-  昭和63年度調査区
-  平成2年度調査区
-  平成3年度調査区
-  平成4年度調査区

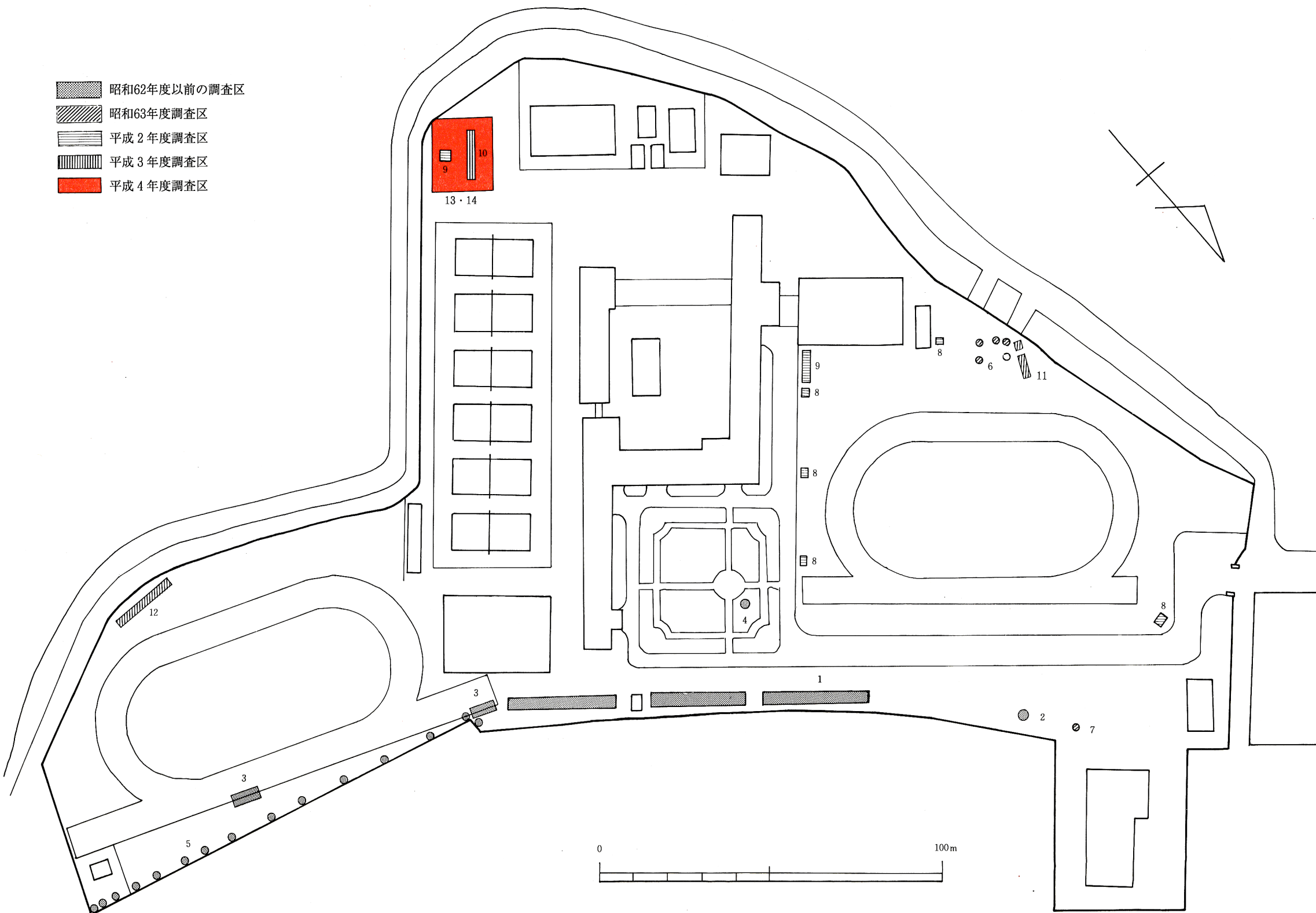
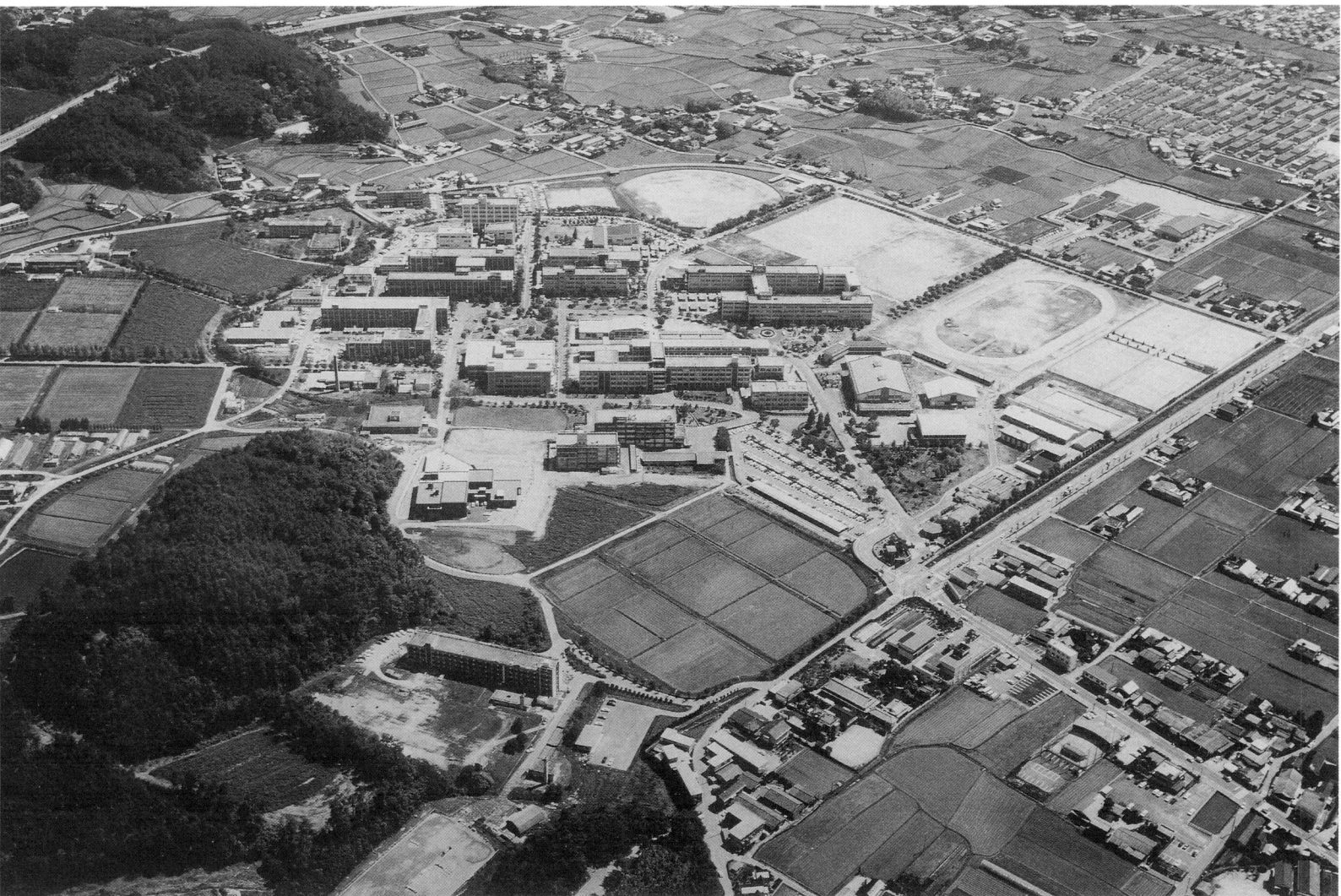
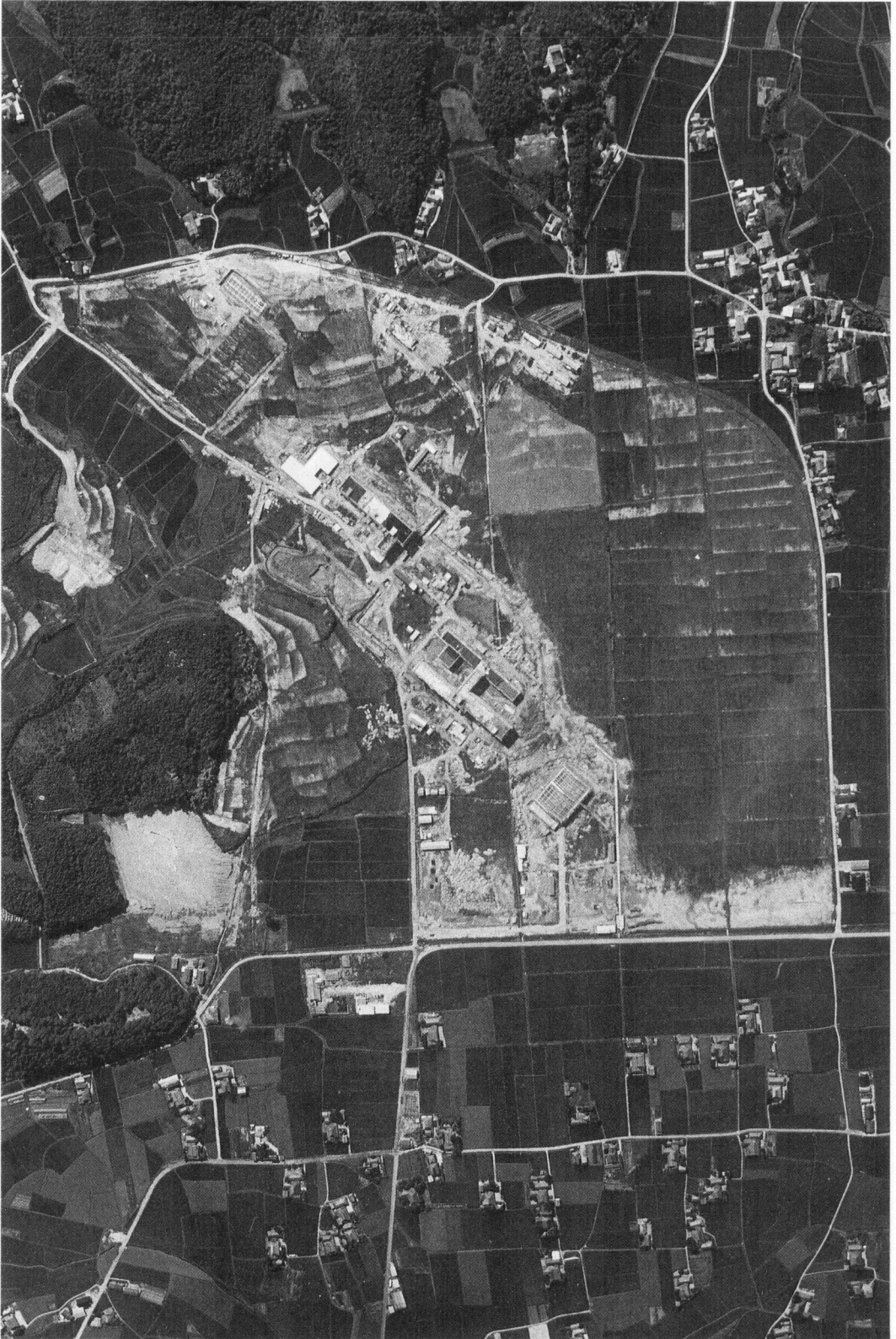


Fig. 101 山口大学光構内調査区位置図

吉田構内全景（北西から）





吉田構内統合移転当時全景（昭和40年頃）